

『“スカノミクス”に蝕まれる日本経済』

2021年06月21日

浜矩子氏の『“スカノミクス”に蝕まれる日本経済』を興味深く読んだ。浜氏に関しては、本や雑誌や新聞に鋭い視点で書かれているものを、感銘をもって読んでいます。数年前、根岸線沿線9条の会の講演をお願いしたところ、快く応じてくださった。力強く、簡明な講演に感嘆した。浜氏はクリスチャンで、聖書の言葉をしばしば引用しておられる。また、巧みな譬えを用いて語られるので、分かり易く受け止められる。

浜氏は、安倍晋三前首相のアベノミクスと言われた経済政策を「アホノミクス」と言い、この言葉は定着した。浜氏は、菅義偉首相の容姿や発言などから、辛辣に批判し、「アホノミクス」に続いて、菅義偉首相を「スガ」を「スカ（はずれ）」と言い換え、「スカノミクス親爺」と言っている。『“スカノミクス”に蝕まれる日本経済』は、菅首相をこれでもかというくらい、否定的な評価をしている。菅首相のテレビ映像を見て、浜氏の母親が吐き捨てるように「奸佞（かんねい）」と言い放ったと言う。「奸佞」は「心がねじけていて悪賢いこと」という意味だそう。浜氏は、母親の感性に賛同し、菅首相を「奸佞首相」と命名している。奸佞首相はマキャベリの教えに従い、権力を求め、権力で冷酷に支配する人である。意に沿わない官僚は、即座に更迭する。学術会議への任命拒否に関し、「総合的、俯瞰的な観点」などという訳の分からない言葉で、拒否理由を答えない。これでは、民主主義は壊れ、恐怖政治になる。奸佞首相の政治信条は「自助、共助、公助、そして、絆」である。自己責任を強調し、公的支援を極力抑え込もうとする、言い換えれば、社会的弱者を顧みない不公平を生み出す政策である。私は、菅首相の「最終的には生活保護がある」というのを聞いて、貧しい人を全く理解していない、できない人だと思った。

浜氏は経済学者で、経済面から奸佞首相を批判している。生活はお金を巡ってのものだから、経済は死活問題であるが、一般人には理解し難く、苦手な領域である。私は、内橋克人著『共生経済が始まる』を読んで、経済に興味を持ち、最近、水野和夫著『資本主義の終焉と歴史の危機』、また、マルクスを新しい視点で捉えた斎藤幸平著『人新世の「資本論」』などを読んだが、十分には理解していない。浜氏は、難しい経済論ではなく、経済の原始的な意味を解き明かしている。「人間による人間のための人間だけの営み。それが経済活動だ。この意味するところは何か。それは、経済活動は人間を幸せにできなければならないということだ。」原発は、スリーマイル島、チェルノブイリ、福島などの事故から、人の命を脅かすもので、経済合理性を持たない。「ブラック企業」も生存権を脅かすので、「企業」とは言えず、「ブラック」と吐き捨てればよいと手厳しい。経済活動は基本的人権を守るもので、それは、他者のために「共痛」のもらい泣きの「涙」を流すことである。「共痛」は浜氏の造語で、他人の痛みに涙しない人は人権を尊重することはできない。正しい経済政策は均衡の保持・回復と弱者救済を追求する。これを追求するために、政策責任者が保有すべきものが三つある。① 共痛にもらい泣きの「涙する目」、② 救いを求める声に「傾ける耳」、③ 苦しみから引き上げる「差し伸べる手」である。浜氏は、経済は共助を生み出す「共生」を求めることだと言ひ、その共生の真実は、イザヤ書11章7節～9節「牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる。わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない（イザヤ11:7～9）」の言葉にあると言われる。浜氏は、「何とか、奸佞首相にも、この真の共生と真の共助の世界を知ってもらいたいものだ」と書き、読者に共生の世界に向かって歩みだそうと招いている。